

『おかきは笑顔の菓』

株式会社赤坂柿山 ルミネ大船店

細渕 克己

「年寄りでも食べられるおかきありますか？」

「あまり硬いのは歯が悪いから…」

どこの店舗でも聞かれるフレーズかと思う。

いつも通りご説明をして商品を一緒に選んでいるがただのプレゼント用ではない様子。

何度かご来店いただいて名刺もお渡ししたお客様なので少し突っ込んだ質問を試してみた。

「どなたにお渡しするのですか？」

「母親なんだけどここがね…」と頭を指した。

どうやら認知症のお母様が食べるおやつとのこと。

食べた事をすぐ忘れてしまうがおかきを食べるのが日課になっているようだ。

「楽しみにしてるから買っていかないかね～」

「ないと機嫌が悪いのよ～」と笑いながら仰って " みずほづつみ " を幾つかご購入いただいた。

また別のお客様は入院中のお母様におかきを持っていくのにご来店された。

近くに大船中央病院という総合病院があるのでお見舞いにお菓子を持って行くお客様が多い。

食べられるものが限られているがおかきを持っていくと喜ぶそうだ。

「いろいろなお味をお持ちになりますか？」とご案内したが、「全部食べたいって言うけど食べさせられないから少しにしておくわ」「食べさせたいんだけどね…」と仰って " 小角こんぶ " と " プチハートえびしお " をご購入いただいた。

世の中には今数え切れない程のお菓子が存在しているがご年配の方はやはりおかき、煎餅が元気になる菓のようなものなのかなと考えてしまう。

自分も小学生の頃毎週と言っていい程葛飾の金町に住んでいた祖母の家に遊びに行っていたがテーブルに置いてあるおやつ箱の中には必ず煎餅が入っていた。

下町の間人らしく「良いから食べる食べる」と急かされたものだ。

「はいはい わかったよ」と言いながら食べるとこたつでリンゴを剥きながら祖母が嬉しそうに笑っていたのを思い出した。

自分もそうだが思い出の味はいくつになっても忘れられない味なんだろうと思う。

「今日はどんな味にします？」

最近来店頻度が多いお客様の顔を少しづつ覚えてきた。

「そうね～どれにしようかしらね」と会話をしているがたまに世間話を聞くだけのときもある。

ネットでもスーパーでもおかきを買えるが、お話しをしてご購入いただく事が対面販売の醍醐味であり、誰でも簡単に出来る仕事ではない。これから AI 等が発達して販売環境がどの様に変わっていくかわからないが五感に響かせる接客は人間じゃないと出来ないと思ふ。

10年ぶりに店頭に立ったが、自分はどんな相手でもお買い物を楽しんでもらい、笑顔になればそれで良いし楽しい。小さい頃祖母から教わった下町のお節介気質なのかもしれない。

柿山のおかきが笑顔になる特効薬になるのであれば一人一人に寄り添った処方箋を考えてお客様とお話しをしたい。